

早稲田商学第 458 号
2020 年 6 月

消 息

谷内満先生のご定年退職にあたって

谷内満先生は、本年 3 月末日をもって早稲田大学を定年退職されます。谷内先生は、わが国を代表するエコノミストとしてグローバルに活躍され、幅広い領域において、その研究と見識を国内外に発信され、私たち教員にも多くのご指導をいただきました。そのような先生が 11 号館の 12 階フロアから離れてしまうことは大変寂しく感じます。若輩かつ浅学で、専門も異なる私が消息を記させていただくことは大変僭越ですが、先生に対する尊敬とお礼として、ここに個人的な思い出も加えて消息を記すことをお許しいただきたいと思います。

先生に初めてお会いしたのは、今から 10 年と少し前になります。私は、実務の世界から早稲田の教員になり、帽子をかぶって背筋を伸ばして歩く谷内先生にお会いして、ダンディで気高く、「まさに伝統的な英国紳士」と感じました。その後、先生とお話をして、先生の学問に対する姿勢や見識に触れるうちに、私の第一印象は確信となりました。先生のご功績を紹介しながら、その点を述べさせていただければと思います。

谷内先生は、1949 年生まれで、東京大学法学部を卒業後、経済企画庁に入庁され、その後、米国ブラウン大学に留学して経済学博士を取得され、1985～89 年には世界銀行のエコノミストとして活躍されました。1997 年にウォートン・スクール（ペンシルバニア大学経営大学院）上級経営管理プログラムも修了され、1998 年からは経済企画庁調整局審議官、1999 年には APEC（アジア太平洋経済協力）経済委員会議長、2001 年に内閣府官房審議官、2003 年に内閣府政策統括官として活躍され、2004 年に早稲田大学商学部教授に就任し、現在に至ります。

谷内先生の研究や活動について、私を感じる点を記させていただきます。

まずは、先生の経済全般に対する広い視野に加え、刻々と変化する世界情勢を常に追っていかれる姿勢についてです。先生の博士論文の題名は、Prior Monetary Expectations and Output Determination で、古典派マクロ経済学の系譜の研究をベースにさ

れています。その系列の著作として、『新しいマネタリズムの経済学』（東洋経済新報社、1982年）を出版されています。

先生の研究を論じることは、専門外の私にはできませんが、私が特に感じる点は、先生の研究姿勢です。先生のご研究は、生きた経済のダイナミズムをグローバルにとらえていくところにあるように思います。そのため、先生は、毎日、日本語と英語で重要な新聞等に目を通すことを日課とされています。先生は、平日は、毎日朝から研究室にいらっしゃって、朝早くお会いすると、よく新聞等を読まれていました。先生の著作や専門的な発信の領域は、講義科目である国際金融よりはるかに広く、現実の経済・社会の動きを踏まえたものとなっています。こうした現実を出発点として研究する姿勢やそのために日々努力される姿を拝見して、私にとって大きな刺激となりました。

現実を出発点とする先生の学問姿勢は、先生の著作にも表れています。たとえば、先生が早稲田に來られてから出版された『入門 金融の現実と理論』（センゲージラーニング、初版2009年、第2版2013年、第3版2017年）や『国際金融と経済—国際マクロ経済学入門—』（成文堂、2015年）には、実例が豊富に記載されていて、現実の事象と理論との関係が示されています。読者は、新聞で目にしたような事件の背後に存在する大きな問題等を知り、学問が現実の課題を乗り越えていくうえで重要な知恵であることを知ることになります。そこには、理論偏重に対する先生の疑問も示されているように思われます。また、先生の *The Japanese Economy -Then, Now, and Beyond-*, Cengage Learning Asia, Singapore, 2014 もこうした視点が反映されている図書であるといえます。同書は、中国語にも翻訳されています（『日本経済』江蘇人民出版社、南京、2016年）。

個人的思い出で恐縮ですが、私は、『損害てん補の本質』という題名の研究書を出版しましたが、ある時、先生とお話していたら、「僕は、本質という言葉はあまり好きではない。『これが本質だ』といえればそれ以上議論が進まないような気がして。」と話されました。本質への探究は、私の拙い研究の一つの方向性ですが、この言葉を聞いてから、今日まで、先生の言葉が頭から離れません。観念論に陥りがちな私に、常に、研究の在り方を反省させる視点になっています。

第二に挙げたい点は、現実の問題に対する政策提言等を広く世の中に発信されている点です。谷内先生は、日本経済新聞の経済教室などにおいて、わが国が直面する重要な

課題に対して専門的な見解をしばしば示されています。その領域は、金利などの金融政策から、財政、労働、経済対策、アジア経済、世界経済と幅広く、まさにエコノミストとしての活躍といえます。私は、日本経済新聞の朝刊で先生のご論考を拝見した時などに、感想などを伝えたりしたことがありました。「日本経済新聞で提言すると批判も含めていろいろ反応があるよ」などと笑いながら話されました。批判を恐れず、信念に基づいて、国の政策にも意見を伝えていくというのは、わが国を良い方向に導こうという先生の責任感と使命感の表れではないかと思います。

第三は、先生のグローバルな視点と姿勢です。先生は、APEC 経済委員会議長という大変難しい重要な役職もこなされ、研究書でも、『グローバル不均衡とアジア経済』（見洋書房、2008年）や『アジアの成長と金融』（東洋経済新報社、1997年）などのアジア経済に関する専門書を出版されています。また、上に掲げた日本経済に関する英文の著書も、外国から見て日本経済が分かるように記述したもので、グローバルな視点が必要になれば、決して執筆できないものと思います。早稲田大学の授業においては、日本語での授業のほか、日本経済、日本のビジネス環境、国際金融などの英語による授業科目も担当され、大学院の演習では多くの留学生を英語で指導されました。先生の英語による授業は、受講生との対話形式で進められていたと聞いています。英語による科目は、英語が堪能であればできるというものではありません。日本のことを説明する場合であっても、世界の情勢を知っていなければ不可能です。世界の状況を知っているがゆえに、それに対比させながら、外国からの留学生にも日本について理解させ、また、日本の学生に対しても日本の特徴を理解させることができるものと思います。

先生と接しながら感じた点として、先生は、単に英語が堪能であるということだけでなく、グローバルな視点に加え、人種や性差などの多様性（ダイバーシティ）を受容する姿勢を自然に身に着けておられると僭越ながら感じました。このことは、逆に言うと、特定の観念によって思考が硬直化することなく、常に、現実をもとに、ありのままを見ていくという先生の姿勢が表れているということもできると思います。先生は、グローバルとか、国際的という言葉自体も好きではないかもしれません。そのような言葉で特殊化すること自体が過去のもので、すでに現実から離れているからです。先生にとって、グローバルな世界は、当たり前の実現ではないかと思います。グローバルな世界に対して、身構えて力んでいるようでは、まだ初心者と言われそうに感じます。

僭越ながら、以上述べさせていただいた先生の特徴は、研究や教育だけでなく、その他のお仕事にも表れているように感じました。

谷内先生は、早稲田大学はもとより、わが国の発展のためにグローバルに活躍され、2019年に瑞宝中綬章を叙勲されました。私は、そのことを知って、谷内先生にお祝いの言葉を伝えたら、「それほど大変なことだとは思っていなかったけれど、早稲田の総長、日銀総裁・副総裁、日経新聞の会長をはじめ多くの方々から祝電や祝福の手紙をいただきびっくりした」と言われました。さわやかな先生の言葉に、「谷内先生らしい」と感じました。権威とか外部からの評価を気にして自分らしさを失いがちな身にとって、飄飄とした先生の姿は、冒頭述べた私の「紳士像」そのまま、とてもうれしく感じました。

私たち教員は、谷内先生から多くのご指導と示唆をいただきました。長年にわたる先生のご指導に対して厚く感謝を申し上げるとともに、先生のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。先生の政策提言などをまた拝見することを楽しみにしております。

最後に、先生の主な業績について、早稲田大学着任以降のものを中心に、以下のとおり紹介させていただきます。

(谷内満先生 著作目録)

著書 (単著)

『入門 金融の現実と理論 第3版』センゲージラーニング, 2017年 (第2版2013年, 初版2009年)

『国際金融と経済—国際マクロ経済学入門—』成文堂, 2015年

The Japanese Economy —Then, Now, and Beyond—, Cengage Learning Asia, Singapore, 2014

(中国語翻訳版: 『日本経済』江蘇人民出版社, 南京, 2016年)

『グローバル不均衡とアジア経済』晃洋書房, 2008年

『アジアの成長と金融』東洋経済新報社, 1997年

『新しいマネタリズムの経済学』東洋経済新報社, 1982年

分担執筆, その他

「法人税改革の論点」日本経済新聞社編『日本再生・改革の論点』, 日本経済新聞出版社, 2014年

「財政政策の效果に過大な期待を抱くな」日本経済新聞社編『日経経済教室セレクションII』, 日本経済新聞出版社, 2010年

「グローバル不均衡—世界金融危機との関係とゆくえ—」『日本経済の対外リスクに関する研究報告書III』第3章, 慶應義塾大学／内閣府経済社会総合研究所, 2010年3月

「中国の為替レート政策と世界経済への影響」『日本経済の対外リスクに関する研究報告書II』第3章, 慶應義塾大学／内閣府経済社会総合研究所, 2009年3月

「グローバル・インバランスのリスクとアジア経済の課題」『日本経済の対外リスクに関する研究報告書I』第4章, 慶應義塾大学／内閣府経済社会総合研究所, 2008年3月

「グローバル・インバランスとアジア経済」浦田・深川編『東アジア共同体の構築2: 経済共同体への展望』第4章, 岩波書店, 2007年

「アジア経済はどうなる」早稲田大学商学部産業経営研究会(商学部100周年記念出版)『成長の持続可能性』第3章, 東洋経済新報社, 2005年

『平成13年度 経済財政白書』(執筆責任者)内閣府, 国立印刷局, 2001年

“APEC Economies beyond the Asian Crisis” (chief author), APEC Economic Committee, publication of the APEC Secretariat, Singapore, 2000

翻訳書

単訳書

ロバート・バロー「マクロ経済学」多賀出版, 1987年

監訳書

『ロバート・J・バロー: バロー マクロ経済学』センゲージラーニング, 2010年

主要論文

“A Policy Study on Japan’s Workplace”, The Waseda Commercial Review, No. 437,

September 2013

“An Analytical Guide to Corporate Japan”, The Waseda Commercial Review, No. 435,

March 2013

「ドル基軸通貨体制のゆくえ」早稲田商学 432号 269頁, 2012年6月

「金融の国際化—その特徴と成長との関係—」早稲田商学 431号, 2012年3月

「中国元から見た中国経済」国際協力銀行『開発金融研究所報』37号, 2008年8月

「日本の外貨準備の政策分析」国際協力銀行『開発金融研究所報』36号, 2008年3月

「国際金融システムの安定性」日本国際問題研究所『国際問題』562号, 2007年6月

「加速する中国金融改革の分析」国際協力銀行『開発金融研究所報』34号, 2007年5月

「急速に進む金融の国際化」海外投融資情報財団『海外投融資』2006年5月号

「アジアの資本流出入構造の変化と課題」国際協力銀行『開発金融研究所報』28号, 2006年2月

「国際資本移動の変貌とアジア」国際協力銀行『開発金融研究所報』27号, 2005年11月

「中国元問題の検証」国際協力銀行『開発金融研究所報』22号, 2005年2月

“Recent Developments in Japan’s Financial Sector: Bad Loans and Financial Deregulation”, Journal of Asian Economics, Vol. 8.2, Connecticut, U.S.A., 1997

“Economic Reform in Japan and Its Implications for Asia”, OECD and ASEAN Economies, edited by K. Fukasaku, M. Plummer and J. Tan, OECD, Paris, France, 1995

“East Asian Growth and Efficiency Gains: A Critique of Paul Krugman’s ‘The Myth of Asia’s Miracle’”, APO Productivity Journal, Winter 1995 issue, Asian Productivity Organization, Tokyo, Japan, 1995

その他（経済評論） *早稲田大学教授就任（2004年4月）以降の主な評論

「日本経済の課題—成長を高めるための変革—」中国経済連合会会報, 2017年11月号

「存在感低下する成長戦略」日本経済新聞『経済教室』, 2017年6月23日朝刊

「郵政上場への課題」日本経済新聞『経済教室』, 2015年7月28日朝刊

「消費税増税の論点」日本経済新聞『経済教室』, 2014年10月9日朝刊

- 「賃上げ問題の論点」日本経済新聞『経済教室』, 2014年2月19日朝刊
- 「成長への道」経団連タイムズ, 2014年1月9日
- 「法人税改革の論点」日本経済新聞『経済教室』, 2013年11月12日朝刊
- 「日経景気討論会」日本経済新聞／日経CNBCテレビ, 2013年10月19日朝刊
- 「賃上げ実現の条件：成長戦略・構造改革が本筋」日本経済新聞『経済教室』, 2013年3月28日朝刊
- 「経常収支問題を考える」日本経済新聞『経済教室』, 2012年3月6日朝刊
- 「成長する経済への道筋」月刊公明, 2011年12月号
- 「Socialist Policies Don't Work」WASEDA ONLINE（読売新聞ネット版）, 2011年7月19日
- 「震災後の政策には市場機能を使おう」WASEDA ONLINE（読売新聞ネット版）, 2011年7月4日
- 「政府は外貨準備の8割を売却せよ」週刊エコノミスト, 2011年6月14日
- 「『小さな政府』の戦略必要」日本経済新聞『経済教室』, 2011年1月28日朝刊
- 「福祉のかたちを考える」毎日新聞『論点』, 2011年1月14日朝刊
- 「成長戦略を考える」経団連タイムズ, 2010年7月29日
- 「新成長戦略—方向性を問う—：供給サイドこそ重視を」日本経済新聞『経済教室』, 2010年6月24日朝刊
- 「アジア経済 持続的成長へ課題」（パネル討議）日本経済新聞, 2010年6月21日朝刊
- 「アジアの成長」（Asia エクスプレス・インタビュー）日経CNBCテレビ, 2010年5月20日
- 「ブレトンウッズ」日本経済新聞社『交遊抄』, 2010年2月25日朝刊
- 「今次不況のメカニズムと政策対応」全国銀行協会『金融』, 2009年8月号
- 「財政政策を問う：効果に過大な期待抱くな」日本経済新聞社『経済教室』, 2009年3月27日朝刊
- 「世界金融危機が突きつける新たな課題」ESP（内閣府編集協力）, 2009年2月
- 「外貨準備の8割は売却すべき」ロイター（英語および中国語）, 2008年5月8日
- 「日本政府に為替リスク：1兆ドルの外貨準備」ブルーナムバーグ・テレビ, 2008年3

月 18 日

「過熱する中国経済一元高で対処を」月刊公明, 2008 年 1 月号

「外貨準備を考えるー大量売却でリスク軽減をー」日本経済新聞『経済教室』, 2007 年
10 月 5 日朝刊

「日本は膨れ上がった外貨準備を減らせ」週刊東洋経済『寄稿論文』, 2007 年 9 月 1 日
「マクロ経済セミナー: 金利上昇」T&D Hot Mail, T&D ファイナンシャル生命,
2007 年 7 月号

「アジア通貨危機から 10 年」日本経済新聞, 2007 年 7 月 2 日朝刊

「日経景気討論会」日本経済新聞/日経 CNBC テレビ, 2007 年 5 月 19 日朝刊

「(書評) 篠原三代平「成長と循環で読み解く日本とアジア」日本経済新聞『この 1 冊』,
2006 年 10 月 22 日朝刊

「ゼロ金利解除は長期好況への第 1 歩」WASEAD.COM on asahi.com (朝日新聞ネット
版), 2006 年 7 月 24 ~ 31 日

「日本経済ー大型景気の持続力ー」日本経済新聞『月曜経済観測』, 2006 年 6 月 26 日
朝刊

「日経景気討論会」日本経済新聞, 2006 年 3 月 8 日朝刊

「(書評) 永野護『新アジア金融アーキテクチャ』」日本経済研究センター会報, 2006
年 2 月号

「警戒水域に入った米経常赤字」週刊エコノミスト『学者が斬る』, 2005 年 12 月 13 日

「日本経済の課題・アジア経済の課題」SMBC コンサルティング MiT, 2005 年 11 月
号

「アジア撤退の邦銀, 攻めの経営への転換を」週刊東洋経済『経済を見る眼』, 2005 年
9 月 24 日

「グローバル・インバランスの裏側に新興国の貯蓄過剰」週刊東洋経済『経済を見る
眼』, 2005 年 7 月 2 日

「小泉改革と経済学の潮流変化」週刊東洋経済『経済を見る眼』, 2005 年 3 月 19 日

「日本経済のゆくえを考える視点」ESP (内閣府編集協力)『巻頭言』, 2005 年 2 月号

「(書評) 白井早由里『人民元と中国経済』」日本経済研究センター会報, 2005 年 2 月

「米国の経常収支赤字とドル安を考える」週刊東洋経済『経済を見る眼』, 2004 年 12

月 11 日

「中国元とドルの将来」 暦日会パワーレクチャー, 2004 年 11 月

「中国の外貨準備巨額累積の正しい読み方」 週刊東洋経済『経済を見る眼』, 2004 年 9

月 11 日

「(書評) 小野善邦『大来佐武郎評伝』」 ESP (内閣府編集協力), 2004 年 9 月号

「経済の復元力の再評価」 週刊東洋経済『経済を見る眼』, 2004 年 6 月 5 日

「『中国元切り上げ論』の誤解」 週刊東洋経済『論点』, 2004 年 5 月 29 日

中出 哲